

### 子育て応援住宅について

佐藤 龍彦



**〔質問〕**子育て応援住宅は、本市が平成28年に子育て世帯の子育て支援と定住促進のため取得した。しかし、近年は入居率も伸び悩んでいる。現在の子育て応援住宅の入居状況について伺う。

**〔答弁〕**「建設課長」令和5年2月末現在、全体戸数80戸に対し33戸、入居率41.3%となっている。

**〔質問〕**入居資格の「義務教育終了前の子どもを1人以上養育していること」という条件を「18歳まで」とすることはできないのか伺う。

**〔答弁〕**「建設課長」入居資格については、白石市

子育て応援住宅管理条例第6条において「子育て世帯」とし、同条例第2条で「義務教育終了前の子どもを1人以上養育し、かつ居住するための住宅を必要としている世帯」としている。現時点において、入居者等からの要望はないことから、入居資格を18歳までとする改正は考えていない。

**〔質問〕**今後、どのようにして入居者を確保していく考えなのか伺う。

**〔答弁〕**「建設課長」入居率向上の取り組みとしては、毎月、広報しろいしへの掲載や、市のホームページ等で周知を行なっているほか、市庁舎内、こじゅうろつキッズランド、おもしろいし市場などの公共施設にも子育て応援住宅

のチラシを配備している。

また、市営住宅などの募集の問い合わせなど、建設課へ来庁された方、電話での問い合わせの際にも、子育て応援住宅の説明を行うなど、PRに努めている。また、住宅管理を委託している民間会社もPRを行なっている。

加えて本年4月の不登校特例校、白石きぼう学園の開校にあたり、他市町からの入居に関する問い合わせも複数件受けており、入居率の向上に期待している。引き続き他自治体の事例などを研究し、住宅管理業者など、民間のノウハウも取り入れながら、入居率の向上に努めていきたい。

#### その他の質問

◎ごみ出し支援について

◎飼い犬・猫及び鳥類等のふん書の対策について

◎住宅リフォーム助成に  
ついて

### 財政支出金の削減策について

大森 貴之



**〔質問〕**市道中河原白石沖線の工事において、水道管の移設工事が一体的に行われているが、個別に行われた場合の経費はどの程度差が生じるのか伺う。

**〔答弁〕**「上下水道事業所長」舗装復旧にかかる経費が担当課間においての工事調整により削減できたと考える。

**〔質問〕**道路整備工事において、水道管等の更新工事を組み込ませることができれば、予算の二部が削減されると認識してよいのか。

**〔答弁〕**「上下水道事業所長」そのような箇所が出てきた場合には、削減につながるかと考えている。

**〔質問〕**近年、衛星写真を利用した漏水診断を用いた方法による漏水対策の実施報告で、愛知県豊田市では漏水箇所の特定作業時における試掘箇所数の減少や、判定に要する時間の短縮、人件費や工事費用の削減等を挙げている。

本市としてもこの衛星写真を利用するシステムを漏水対策に導入すべきと考えるが、見解を伺う。

**〔答弁〕**「上下水道事業所長」衛星写真の使用には高額な費用負担が伴うことから、今後、豊田市を含めた他自治体の動向を注視しながら慎重に進めていきたい。

**〔質問〕**宮城県では各自治体の水道事業における経営の効率化の観点から、水道事業の広域化

を推奨しているが、本市は隣接市町との連携について、どのように考えているのか伺う。

**〔答弁〕**「市長」現在、宮城県が中心に作成し、今後、公表予定の県の広域化推進プラン五つの方針のもと、広域連携の推進について積極的に進めていきたい。

**〔質問〕**各部署で連携しながら経費の重なる部分を一緒に行えば削減できるというシステムを構築していただきたいが、見解を伺う。

**〔答弁〕**「上下水道事業所長」建設工事においては常にコスト意識を持ち、経費削減に努めている。庁舎内、特に建設部とは常に情報共有を行い、埋設管路の情報や建設部事業との事業調整を行なっており、令和4年度には工事担当課間で調整会議を行なったところ

である。